安田女子大学紀要　41，1–14　2013.

人名における漢字使用の変化とその誘因

川　岸　克　己

Changes in the Use of Kanji for Names and the Motivation behind Such Change

Katsumi KAWAGISHI

1．問　題　提　起

日本人の名前に用いられる漢字が大きく変化している。漢字を見ただけではどのように読むのか見当がつかない，たとえ読めたとしても違和感を感じる，あるいは，一般的な感覚とは異なる感性によってつけられた名前が多くなった。ありていに言えば，これは人名としてふさわしいのかどうか疑問に思わざるを得ない名前が増えている。これらの名前を巷間では，「DQN ネーム」あるいは「キラキラネーム」などと呼ぶ。前者は，これらの名前を名づけに相応しくないと批判する側に立った蔑称であり，後者は，これらの名前を擁護する側に立った呼称である。後者は，前者に対する対抗的な呼称という意味合いもある。

本論は，日本人の名前の漢字使用状況から命名の問題について論じるが，名前や命名法について，是非を問おうというものではない。なぜこのような現象が出現したのか，言い換えれば，そこへ至る背景こそ考察されなければならない問題であると考え，その原因について論じる。

したがって，ここでは極端な名前をあげつらうのではなく，むしろ日本人の名前としてもっとも多く選択された文字（漢字およびひらがなカタカナ）を通して，その変化とその要因について論じる。

2．調　　査

2.1.　年代別の名前ランキングデータ

明治安田生命のウェブサイトに各年代別の名前ランキングデータというものがある(注 1)。1912（大正 1）年から 2011（平成 23）年まで 99 年間の，男女上位 10 位の名前が掲載された貴重なデータである(注 2)。

（注 1）　明治安田生命「生まれ年別の名前調査名前ランキング 2011」
http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/etc/ranking/

（注 2）　明治安田生命のウェブサイトによれば，このデータは，以下の調査方法によって収集されたものである。「明治 45・大正 1（1912）年～昭和 63（1988）年のトップ 10 については，昭和 64・平成 1（1989）年時点におけるご加入者を対象に調査を行なったものです。昭和 64・平成 1（1989）年以降は毎年，その年のご加入者を対象に調査を行なっています。」（明治安田生命ウェブサイトより引用）

そのデータを参考に以下のように作表した。

【表１】 年代別名前ランキング（男性）トップ 10

西暦	年号	干支	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1912	明 45 大 1	子	正一	清	正雄	正	茂	武雄	正治	三郎	正夫	一郎
1913	大正 2	丑	正二	茂	正雄	正	清	三郎	正一	武雄	義雄	正男
1914	大正 3	寅	正三	清	正雄	三郎	正	正一	勇	実	秀雄	茂
1915	大正 4	卯	清	三郎	茂	正雄	正	実	武雄	一郎	義雄	正一
1916	大正 5	辰	辰雄	清	三郎	勇	一郎	茂	実	正雄	秀雄	辰男
1917	大正 6	巳	三郎	清	勇	一郎	実	正雄	博	正一	正	茂
1918	大正 7	午	清	三郎	勇	一郎	義雄	実	茂	正	博	正雄
1919	大正 8	未	三郎	清	勇	実	一郎	義雄	正雄	正	茂	弘
1920	大正 9	申	清	茂	三郎	勇	実	一郎	博	弘	正	正雄
1921	大正 10	酉	清	三郎	茂	勇	博	一郎	実	弘	正	正雄
1922	大正 11	戌	清	三郎	勇	博	茂	正	一郎	実	弘	秀雄
1923	大正 12	亥	清	三郎	勇	茂	博	一郎	実	正	弘	進
1924	大正 13	子	清	茂	三郎	勇	博	実	弘	一郎	正	武
1925	大正 14	丑	清	茂	勇	三郎	博	実	弘	正	一郎	進
1926	大 15 昭 1	寅	清	勇	博	実	茂	三郎	弘	正	進	一男
1927	昭和 2	卯	昭二	昭	和夫	清	昭一	博	勇	茂	実	弘
1928	昭和 3	辰	昭三	茂	昭	清	勇	辰雄	博	弘	三郎	和夫
1929	昭和 4	巳	茂	清	勇	実	博	弘	三郎	和夫	昭	進
1930	昭和 5	午	清	勇	実	進	茂	博	和夫	三郎	弘	幸雄
1931	昭和 6	未	清	勇	博	弘	茂	実	進	三郎	幸雄	稔
1932	昭和 7	申	勇	弘	清	実	進	博	茂	稔	正	和夫
1933	昭和 8	酉	清	実	弘	茂	勇	博	進	明	武	正
1934	昭和 9	戌	明	実	弘	清	博	進	勇	茂	昇	三郎
1935	昭和 10	亥	弘	清	勇	実	博	進	正	茂	隆	稔
1936	昭和 11	子	清	弘	実	博	勇	進	正	茂	稔	勉
1937	昭和 12	丑	清	勇	弘	進	博	勝	実	正	茂	武
1938	昭和 13	寅	勝	進	弘	勇	清	勲	武	博	功	実
1939	昭和 14	卯	勇	勝	清	進	弘	博	勲	稔	武	隆
1940	昭和 15	辰	勇	清	進	博	弘	勲	勝	武	稔	茂
1941	昭和 16	巳	勇	進	清	勲	弘	稔	勝	博	功	昇
1942	昭和 17	午	勝	勇	進	勲	功	清	昭	弘	博	稔
1943	昭和 18	未	勝	勇	進	勲	武	功	清	博	弘	勝利
1944	昭和 19	申	勝	勇	勝利	進	勲	清	博	弘	武	功
1945	昭和 20	酉	勝	勇	進	清	勝利	博	勲	弘	稔	修
1946	昭和 21	戌	稔	和夫	清	弘	博	豊	進	勇	修	明
1947	昭和 22	亥	清	稔	博	進	弘	修	茂	和夫	勇	明
1948	昭和 23	子	博	進	茂	清	実	明	修	豊	正	和夫
1949	昭和 24	丑	博	茂	清	進	実	修	明	隆	豊	誠
1950	昭和 25	寅	博	茂	隆	実	清	進	明	修	豊	誠
1951	昭和 26	卯	茂	博	隆	修	和夫	進	誠	清	実	明
1952	昭和 27	辰	茂	博	誠	隆	稔	進	昇	修	清	勉
1953	昭和 28	巳	茂	誠	隆	博	稔	修	進	清	勉	明
1954	昭和 29	午	茂	誠	隆	修	博	進	稔	清	正	豊
1955	昭和 30	未	隆	誠	茂	修	豊	博	稔	進	清	勉
1956	昭和 31	申	隆	誠	修	豊	茂	稔	博	明	昇	進
1957	昭和 32	酉	誠	隆	茂	博	修	浩	勝	明	勉	豊

1958	昭和 33	戊	誠	隆	浩	修	茂	博	豊	明	徹	勝
1959	昭和 34	亥	誠	修	隆	徹	茂	豊	明	浩	進	博
1960	昭和 35	子	浩	浩一	誠	浩二	隆	修	徹	浩之	聡	博
1961	昭和 36	丑	浩	誠	浩一	徹	剛	隆	和彦	修	浩二	聡
1962	昭和 37	寅	誠	浩	豊	徹	浩一	修	和彦	剛	隆	秀樹
1963	昭和 38	卯	誠	浩	豊	修	隆	浩一	和彦	哲也	徹	直樹
1964	昭和 39	辰	誠	浩	修	隆	達也	豊	和彦	直樹	浩一	勉
1965	昭和 40	巳	誠	浩	修	直樹	哲也	和彦	豊	剛	学	隆
1966	昭和 41	午	誠	浩	和彦	哲也	健一	学	剛	直樹	浩二	秀樹
1967	昭和 42	未	誠	健一	哲也	浩	剛	学	和彦	修	直樹	隆
1968	昭和 43	申	健一	誠	剛	哲也	浩二	修	浩	学	徹	淳
1969	昭和 44	酉	誠	健一	哲也	剛	浩二	直樹	徹	健	浩	和彦
1970	昭和 45	戌	健一	誠	哲也	剛	博	直樹	学	博之	英樹	修
1971	昭和 46	亥	誠	哲也	剛	直樹	健一	英樹	学	浩二	崇	淳
1972	昭和 47	子	誠	哲也	剛	健一	学	直樹	秀樹	徹	英樹	淳
1973	昭和 48	丑	誠	剛	哲也	直樹	健一	秀樹	学	淳	英樹	大輔
1974	昭和 49	寅	誠	大輔	剛	健一	淳	哲也	直樹	学	聡	大介
1975	昭和 50	卯	誠	大輔	学	剛	大介	直樹	健一	淳	崇	亮
1976	昭和 51	辰	誠	大輔	直樹	剛	淳	大介	竜也	学	健一	亮
1977	昭和 52	巳	誠	大輔	健太郎	剛	大介	学	健一	亮	直樹	洋平
1978	昭和 53	午	誠	大輔	直樹	剛	亮	大介	聡	健	健一	学
1979	昭和 54	未	大輔	誠	直樹	亮	剛	大介	学	健一	健	哲也
1980	昭和 55	申	大輔	誠	直樹	哲也	剛	学	大介	亮	健一	聡
1981	昭和 56	酉	大輔	大介	健太	直樹	誠	哲也	亮	健	健太郎	淳
1982	昭和 57	戌	大輔	誠	健太	大介	直樹	剛	亮	和也	健太郎	翔
1983	昭和 58	亥	大輔	健太	直樹	誠	拓也	翔	和也	徹	大介	達也
1984	昭和 59	子	大輔	健太	誠	直樹	拓也	祐介	翔	雄太	和也	優
1985	昭和 60	丑	大輔	拓也	直樹	健太	和也	達也	亮	翔	洋平	徹
1986	昭和 61	寅	大輔	達也	健太	拓也	和也	翔	翔太	亮	雄太	直樹
1987	昭和 62	卯	達也	拓也	翔太	大輔	健太	和也	翔	直樹	大樹	亮
1988	昭和 63	辰	翔太	達也	拓也	大輔	健太	和也	亮	竜也	翔	大樹
1989	昭 64 平 1	巳	翔太	拓也	健太	翔	達也	雄太	翔平	大樹	亮	健太郎
1990	平成 2	午	翔太	拓也	健太	大樹	亮	駿	雄太	達也	翔平	大輔
1991	平成 3	未	翔太	拓也	健太	翔	大樹	翔平	大輔	直樹	達也	雄太
1992	平成 4	申	拓也	健太	翔太	翔	大樹	大貴	貴大	達也	大輔	和也
1993	平成 5	酉	翔太	拓也	健太	大樹	大輝	−	大輔	大地	翔	直樹
1994	平成 6	戌	健太	翔太	拓也	翼	翔	大樹	大輔	亮太	大輝	大貴
1995	平成 7	亥	拓也	健太	翔太	翼	大樹	大貴	翔	亮太	拓哉	雄大
1996	平成 8	子	翔太	健太	大輝	翼	大樹	拓海	直人	—	翔	康平
1997	平成 9	丑	翔太	翔	健太	大輝	陸	拓海	大地	大樹	翼	—
1998	平成 10	寅	大輝	海斗	翔	翔太	大地	—	—	一輝	涼太	匠
1999	平成 11	卯	大輝	拓海	海斗	大輔	—	—	大樹	翔太	健太	—
2000	平成 12	辰	翔	翔太	大輝	優斗	—	海斗	竜也	陸	—	一輝
2001	平成 13	巳	大輝	翔	海斗	陸	蓮	—	健太	—	優太	—
2002	平成 14	午	駿	拓海	—	蓮	翔太	—	蓮	翔太	大輝	大樹
2003	平成 15	未	大輝	翔	大翔	—	匠	太陽	—	蓮	悠斗	海斗
2004	平成 16	申	蓮	颯太	翔太	—	大翔	颯	翔	—	—	翼
2005	平成 17	酉	翔	—	拓海	翔太	颯太	翼	海斗	—	太陽	—
2006	平成 18	戌	陸	大翔	大輝	—	翼	悠斗	翔太	海斗	—	—
2007	平成 19	亥	大翔	蓮	大輝	翔太	悠斗	—	優太	—	大和	健太

2008	平成 20	子	大翔	悠斗	陽向	翔太	悠人	—	悠太	—	蓮	駿
2009	平成 21	丑	大翔	翔	瑛太	—	蓮	悠真	—	悠斗	颯真	—
2010	平成 22	寅	大翔	悠真	翔	颯太	—	颯真	—	—	大雅	—
2011	平成 23	卯	大翔	—	颯太	樹	—	—	陸斗	—	海翔	蒼空

（http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/etc/ranking/year_men/ を参考に作成）

【表２】 年代別名前ランキング（女性）トップ 10

西暦	年号	干支	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1912	明 45 大 1	子	千代	ハル	ハナ	正子	文子	ヨシ	千代子	キヨ	静子	はる
1913	大正 2	丑	正子	千代	静子	キヨ	文子	ヨシ	ハル	フミ	マサ	きみ
1914	大正 3	寅	静子	キヨ	千代子	ハル	きよ	ヨシ	キミ	トミ	フミ	光子
1915	大正 4	卯	千代	千代子	文子	静子	キヨ	ハル	清子	きよ	きみ	はる
1916	大正 5	辰	文子	千代子	千代	清子	キミ	八重子	フミ	キヨ	静子	貞子
1917	大正 6	巳	千代子	キヨ	キミ	文子	八重子	愛子	静子	ハル	美代子	貞子
1918	大正 7	午	久子	静子	千代子	キミ	文子	清子	キヨ	貞子	千代	ハル
1919	大正 8	未	久子	千代子	和子	貞子	静子	文子	ヨシ	キヨ	清子	キミ
1920	大正 9	申	文子	久子	千代子	静子	貞子	芳子	愛子	清子	キヨ	君子
1921	大正 10	酉	文子	千代子	清子	久子	芳子	静子	幸子	美代子	敏子	愛子
1922	大正 11	戌	文子	幸子	美代子	清子	千代子	静子	愛子	久子	光子	敏子
1923	大正 12	亥	文子	千代子	幸子	清子	久子	美代子	愛子	光子	静子	貞子
1924	大正 13	子	幸子	文子	千代子	愛子	美代子	清子	信子	敏子	久子	静子
1925	大正 14	丑	幸子	文子	美代子	久子	芳子	愛子	信子	和子	千代子	八重子
1926	大 15 昭 1	寅	久子	幸子	美代子	照子	文子	和子	信子	千代子	光子	貞子
1927	昭和 2	卯	和子	昭子	久子	照子	幸子	美代子	光子	文子	信子	節子
1928	昭和 3	辰	和子	節子	幸子	久子	昭子	美代子	照子	典子	文子	信子
1929	昭和 4	巳	和子	幸子	美代子	久子	節子	文子	照子	光子	貞子	八重子
1930	昭和 5	午	和子	幸子	節子	美代子	愛子	久子	文子	光子	孝子	敏子
1931	昭和 6	未	和子	幸子	節子	美代子	久子	文子	美智子	敏子	愛子	洋子
1932	昭和 7	申	和子	幸子	節子	文子	美代子	久子	弘子	美智子	愛子	光子
1933	昭和 8	酉	和子	幸子	節子	洋子	弘子	久子	文子	美代子	美智子	信子
1934	昭和 9	戌	和子	幸子	節子	久子	弘子	洋子	美代子	文子	美智子	信子
1935	昭和 10	亥	和子	幸子	節子	弘子	久子	洋子	美智子	栄子	良子	美代子
1936	昭和 11	子	和子	幸子	節子	弘子	京子	久子	洋子	美智子	悦子	文子
1937	昭和 12	丑	和子	幸子	節子	弘子	京子	洋子	久子	美智子	文子	悦子
1938	昭和 13	寅	和子	幸子	節子	弘子	洋子	京子	悦子	美智子	久子	栄子
1939	昭和 14	卯	和子	幸子	節子	弘子	洋子	悦子	美智子	京子	美代子	孝子
1940	昭和 15	辰	紀子	和子	幸子	節子	洋子	弘子	美智子	久子	文子	悦子
1941	昭和 16	巳	和子	幸子	洋子	節子	弘子	美智子	悦子	美代子	京子	恵子
1942	昭和 17	午	洋子	和子	幸子	節子	昭子	弘子	美智子	勝子	光子	悦子
1943	昭和 18	未	和子	洋子	幸子	節子	弘子	美智子	勝子	悦子	光子	昭子
1944	昭和 19	申	和子	洋子	幸子	節子	勝子	弘子	美智子	光子	悦子	昭子
1945	昭和 20	酉	和子	幸子	洋子	節子	弘子	美智子	勝子	信子	美代子	京子
1946	昭和 21	戌	和子	幸子	洋子	美智子	節子	弘子	京子	悦子	恵子	美代子
1947	昭和 22	亥	和子	幸子	洋子	美智子	節子	弘子	恵子	悦子	京子	恵美子
1948	昭和 23	子	和子	幸子	洋子	節子	悦子	恵子	京子	美代子	恵美子	啓子
1949	昭和 24	丑	幸子	和子	洋子	節子	恵子	悦子	京子	恵美子	啓子	久美子
1950	昭和 25	寅	和子	洋子	幸子	恵子	節子	京子	悦子	恵美子	順子	由美子
1951	昭和 26	卯	和子	洋子	恵子	幸子	京子	節子	恵美子	悦子	順子	由美子
1952	昭和 27	辰	和子	恵子	洋子	幸子	京子	節子	美智子	悦子	由美子	順子
1953	昭和 28	巳	恵子	洋子	和子	幸子	京子	美智子	由美子	節子	悦子	久美子
1954	昭和 29	午	恵子	洋子	幸子	京子	和子	由美子	美智子	久美子	悦子	順子

1955	昭和 30	未	洋子	恵子	京子	幸子	和子	久美子	由美子	裕子	美智子	悦子
1956	昭和 31	申	恵子	京子	洋子	幸子	和子	久美子	由美子	裕子	順子	典子
1957	昭和 32	酉	恵子	京子	洋子	幸子	和子	久美子	由美子	裕子	明美	美智子
1958	昭和 33	戌	恵子	久美子	洋子	幸子	由美子	裕子	美智子	和子	京子	明美
1959	昭和 34	亥	恵子	久美子	智子	美智子	由美子	明美	幸子	洋子	裕子	京子
1960	昭和 35	子	恵子	由美子	久美子	智子	浩子	裕子	洋子	明美	幸子	和子
1961	昭和 36	丑	恵子	由美子	久美子	明美	裕子	洋子	幸子	智子	京子	真由美
1962	昭和 37	寅	久美子	由美子	恵子	洋子	智子	裕子	明美	幸子	由美	真由美
1963	昭和 38	卯	由美子	恵子	久美子	明美	真由美	由美	裕子	幸子	洋子	智子
1964	昭和 39	辰	由美子	真由美	明美	久美子	恵子	由美	裕子	智子	幸子	ゆかり
1965	昭和 40	巳	明美	真由美	由美子	恵子	久美子	裕子	智子	由美	幸子	直美
1966	昭和 41	午	由美子	真由美	明美	智子	洋子	裕子	由美	陽子	久美子	幸子
1967	昭和 42	未	由美子	由美	真由美	洋子	明美	直美	智子	裕子	陽子	恵子
1968	昭和 43	申	直美	由美子	真由美	智子	裕子	由美	恵子	陽子	久美子	明美
1969	昭和 44	酉	直美	智子	由美子	陽子	裕子	真由美	久美子	恵子	由美	幸子
1970	昭和 45	戌	直美	智子	陽子	裕子	由美子	真由美	直子	久美子	由美	恵子
1971	昭和 46	亥	陽子	智子	真由美	直美	裕子	由美子	純子	由美	恵子	久美子
1972	昭和 47	子	陽子	真由美	智子	裕子	純子	恵子	恵美	美香	直美	由美
1973	昭和 48	丑	陽子	裕子	真由美	智子	純子	恵美	香織	恵	美穂	美香
1974	昭和 49	寅	陽子	裕子	真由美	久美子	純子	智子	優子	美香	恵美	美穂
1975	昭和 50	卯	久美子	裕子	真由美	智子	陽子	優子	純子	香織	美穂	美紀
1976	昭和 51	辰	智子	裕子	真由美	陽子	久美子	香織	裕美	めぐみ	恵	美穂
1977	昭和 52	巳	智子	陽子	久美子	裕子	真由美	香織	裕美	幸子	恵	優子
1978	昭和 53	午	陽子	久美子	智子	裕子	恵	理恵	香織	愛	真由美	恵子
1979	昭和 54	未	智子	久美子	陽子	裕子	理恵	真由美	香織	恵	愛	優子
1980	昭和 55	申	絵美	裕子	久美子	恵	智子	愛	香織	恵美	理恵	陽子
1981	昭和 56	酉	恵	愛	裕子	香織	恵美	陽子	久美子	智子	絵美	理恵
1982	昭和 57	戌	裕子	愛	香織	恵	智子	麻美	美穂	理恵	陽子	久美子
1983	昭和 58	亥	愛	裕子	麻美	麻衣	恵	香織	明日香	智子	美穂	美香
1984	昭和 59	子	愛	麻衣	恵	裕子	麻美	美香	智美	美穂	麻衣子	友美
1985	昭和 60	丑	愛	麻衣	麻美	恵	香織	彩	あゆみ	友美	舞	裕子
1986	昭和 61	寅	愛	美穂	麻衣	彩	麻美	恵	香織	由佳	あゆみ	友美
1987	昭和 62	卯	愛	愛美	沙織	彩	美穂	香織	麻美	恵	麻衣	舞
1988	昭和 63	辰	愛	彩	美穂	麻衣	沙織	舞	麻美	愛美	恵	香織
1989	昭 64 平 1	巳	愛	彩	美穂	成美	沙織	麻衣	舞	愛美	瞳	彩香
1990	平成 2	午	愛	—	愛美	千尋	麻衣	舞	美穂	瞳	彩香	—
1991	平成 3	未	美咲	愛	美穂	彩	麻衣	彩香	舞	愛美	早紀	千尋
1992	平成 4	申	美咲	愛	舞	茜	美穂	彩	—	桃子	千尋	愛美
1993	平成 5	酉	美咲	愛	舞	里奈	彩	—	麻衣	茜	彩香	彩花
1994	平成 6	戌	美咲	愛	萌	愛美	遥	千夏	—	—	舞	—
1995	平成 7	亥	美咲	愛	遥	佳奈	—	葵	彩	菜摘	桃子	茜
1996	平成 8	子	美咲	彩	明日香	真由	—	愛	楓	奈々	—	彩香
1997	平成 9	丑	明日香	美咲	七海	彩花	—	—	—	未来	愛	—
1998	平成 10	寅	萌	美咲	優花	舞	—	七海	—	玲奈	明日香	未来
1999	平成 11	卯	未来	萌	美咲	亜美	里奈	菜々子	彩花	遥	七海	彩乃
2000	平成 12	辰	さくら	—	美咲	—	七海	—	美月	—	明日香	—
2001	平成 13	巳	さくら	未 来	七海	美月	—	美咲	玲奈	優花	—	琴音
2002	平成 14	午	美咲	—	七海	美羽	莉子	美優	萌	美月	—	—
2003	平成 15	未	陽菜	七海	さくら	凜	美咲	—	萌	美月	—	真央
2004	平成 16	申	さくら	—	凜	陽菜	七海	—	花音	葵	結衣	百花
2005	平成 17	酉	陽菜	さくら	美咲	葵	—	美優	凜	七海	—	—

2006	平成 18	戌	陽菜	美羽	美咲	さくら	愛	―	―	真央	優衣	愛美
2007	平成 19	亥	葵	さくら	―	結衣	―	七海	―	美優	ひなた	―
2008	平成 20	子	陽菜	結衣	葵	さくら	優奈	美優	心優	莉子	―	―
2009	平成 21	丑	陽菜	美羽	―	美桜	結愛	さくら	―	彩乃	七海	ひなた
2010	平成 22	寅	さくら	陽菜	―	―	美桜	美羽	葵	―	美咲	―
2011	平成 23	卯	陽菜	―	結衣	杏	莉子	―	―	―	―	美咲

（http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/etc/ranking/year_women/ を参考に作成）

このデータをみると，男性は，かつて漢字１字で名付けされる時代が長く続いたが，近年は漢字１字ではなく２字の名前が多い。男性には「～郎」や「～男・～雄・～夫」，女性には「～子」といった文字がみえる。これらは男女それぞれの性別を表す象徴的な下接漢字であったが，近年では，すっかり姿を消してしまっている。女性では，意味を優先した名前がかつては多かったが，時代が下るにつれて音を優先した当て字の名前が多くなっている。またその使用される漢字も草花をイメージさせるものが多い。あるいは，男女とも，戦前戦中においては，戦争の影響を受けた名が多いのも特徴的である。

上記のデータを一瞥しただけでもさまざまな発見があり，たいへん興味深い。それぞれの時代の空気をひしひしと感じる。しかし，ここでもっとも注目したいのは，時代とともに名前のありようが変化してきた現代において，以前とは明らかに異なる命名のプロセスが存在することである。

2.2.　特徴的な漢字「太」と「愛」

昨年（2011 年）の名前はどのようにつけられたのか。明治安田生命の名前ランキングデータのなかに，昨年の名前のデータがある(注 3)。こちらは，2011 年につけられたトップ 100 の名前がリストされている。このデータをもとに，トップ 100 の名前にはどのような漢字が多く使われたのかについてまとめ直したのが以下の表である。括弧内の数字はその漢字が使用された名前がランクインした数である。

【表３】　2011 名前ランキングトップ 100（男）に使用された漢字

太	15	介	5	歩	3	奏	2	伊	1	康	1	爽	1	輔	1	遼	1
斗	14	輝	5	遥	3	馬	2	央	1	皇	1	汰	1	湊	1	玲	1
大	13	人	5	陸	3	勇	2	芽	1	樹	1	拓	1	夢	1	昊	1
翔	13	優	5	蓮	3	琉	2	久	1	潤	1	地	1	也	1	煌	1
悠	10	一	4	和	3	亮	2	圭	1	匠	1	之	1	唯	1	珀	1
真	9	雅	4	海	2	郎	2	慶	1	織	1	隼	1	翼	1		
陽	8	空	4	健	2	琥	2	月	1	迅	1	柊	1	理	1		
颯	7	瑛	3	春	2	レ	1	吾	1	成	1	彪	1	瑠	1		
希	6	航	3	駿	2	ン	1	光	1	生	1	武	1	龍	1		
蒼	6	智	3	仁	2	愛	1	向	1	聖	1	風	1	諒	1		

まず，男性の名前でもっとも多く使用された漢字は「太」であった。トップ 100 の中で以下に示す 15 の名前に使用されている。括弧内の数字はトップ 100 内での順位である。

（注 3）　http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/etc/ranking/

颯太（3），太一（7），翔太（13），悠太（20），蒼太（26），瑛太（37），健太（53），陽太（53），琥太郎（53），康太（72），奏太（72），太陽（72），亮太（72），遼太（72），翔太郎（72）

太一や琥太郎，太陽といったものは別として，「～太」という命名法によるものがもっとも多いのがわかる。

「太」の文字が最初にトップ100に現れるのは，1977年の健太郎（第3位）であった。そして，その4年後の1981年，「～太」というかたちの名前である健太（第3位）が初めてトップ10に現れる。

その後，この年1981年から1年だけを除き（1985年は第4位），17年間もの長きにわたり，「～太」はトップ3にランクインし続けている。しかも，1988年から1997年の10年間においては，実に8回も第1位となった。

第1位から消えた「～太」の名前は，その後下火になっていったのかというと実はそうではなく，「～太」に上接する漢字が多様になったため，単独の名前がトップにランクされなくなっただけであった。最初は，健太のみであったが，その後，1984年に雄太が現れ，翔太，亮太，涼太，優太，颯太，悠太，瑛太と多様化していった。上位にランクされなくなったが，トップ10のなかに「～太」の名前が3つもランクされているという年が7年（1986，1991，1996，2001，2002，2007，2008）もあった。つまり，「～太」の人気は衰えるどころか，より多様化して一層支持されているのである。

1981年の健太を皮切りに爆発的に増加し，2012年現在においてもなおその勢いが保たれている名前が「～太」という命名法による名前である。そして，このもっとも多く使用されている「太」こそが現代の命名におけるキーワードである。

一方，女性の名前では，どのようになっているだろうか。男性と同じく2011年のトップ100の名前に使用された文字をリストしたのが以下の表である。

【表4】 2011名前ランキングトップ100（女）に使用された漢字

愛	16	音	7	里	4	萌	3	海	2	お	1	綾	1	生	1	歩	1	玲	1
花	14	咲	6	和	4	柚	3	光	2	く	1	叶	1	奏	1	穂	1	凛	1
美	14	桜	6	杏	3	梨	3	春	2	さ	1	琴	1	蒼	1	望	1	栞	1
心	11	乃	6	衣	3	瑠	3	真	2	た	1	空	1	那	1	未	1		
奈	11	希	5	央	3	あ	2	桃	2	の	1	向	1	虹	1	夢	1		
優	11	彩	5	華	3	か	2	璃	2	ま	1	七	1	日	1	葉	1		
菜	10	ひ	4	月	3	こ	2	良	2	ら	1	朱	1	寧	1	遥	1		
結	9	り	4	香	3	な	2	麗	2	ろ	1	樹	1	帆	1	来	1		
莉	9	羽	4	子	3	葵	2	々	2	ん	1	緒	1	百	1	琉	1		
陽	8	芽	4	紗	3	依	2	い	1	亜	1	晴	1	楓	1	怜	1		

もっとも多く用いられているのが「愛」という漢字である。ただし，愛はすでに1917（大正6）年に，愛子（第6位）がトップ10に現れている。その後も，断続的に10年間トップ10に現れる。そして，1932年の第9位を最後に突然ランクから消える。

この「愛」の漢字は，不思議なことに，その後半世紀近くもの長いブランクののち，1979年に愛という名前で突然復活する。「～子」が取り払われたところなどは時代を感じさせる。その

後，愛は5年間ランクインし続け，ついに1983年に第1位となった。そこから1990年までの8年間も第1位を守り続け，1991年から1995年までの5年間は，第2位となった。いずれにせよ，1979年から1995年までの17年間上位に位置し続けたことは，近年の女性の名前を特徴づけるといっていいだろう。

ここでおもしろいことに気づく。男性の名前を特徴づける「太」は，1981年にトップ10にランクインし，その後今日まで現代の男性の名前を代表する漢字となっている。一方の女性の名前を特徴づける「愛」は，1979年に復活してからずっとトップ10にランクインして，こちらもまた現代の女性の名前を代表する漢字となっている。ここで気づくことは，現代の名前を特徴づける「太」と「愛」は，1980年を挟んで1年前後しているだけだということだ。つまり，1980年前後に，命名に関して大きな分岐点があることがわかる。

1980年は，アメリカ合衆国の大統領にロナルド・レーガンが選出され，日米がよりいっそう緊密な関係を築き始めた年であったが，庶民文化の視点からみると，1980年は80年代のいわゆるアイドルブームが始まった年で，松田聖子や田原俊彦，河合奈保子，石野真子，岩崎良美，三原順子らがデビューしている。同じ1980年にはそれまでの時代の象徴的存在でもあった山口百恵が引退しており，時代の分岐点的な年であったといっていいだろう。その他にも，当時社会的な問題となっていた「つっぱり」から派生した「なめ猫」ブームが発生した。

これらに共通するのは，この時代の文化の幼さである。歌謡曲はその前年までの大人っぽい雰囲気の歌から一転して10代の恋心を歌うものが爆発的に増加した。つっぱりは，それまでの反抗が学生運動にみられるような社会に対する反抗（たとえそれが名目だけのものだったとしても）ではなく，身近な大人に対するささやかな反抗心でしかなかったし，なめ猫をかわいいと思う感性はもはや言うまでもない。

ここではこの是非を論じるつもりはない。むしろこの時代に10代を過ごした筆者にとってはけっして居心地の悪い時代ではなかったように記憶している。良いとも思わないし悪いとも思わない。ただそれがあるだけだ。それはともかく，ここで注目すべきことは，この時代の文化あるいは感性の幼さというものが，この時代に誕生した子どもの名付けに影響を与えているのではないかということである。それが先の，時代を特徴づける「太」と「愛」の存在である。

3．仮 説 提 示

「太」という漢字は，それまで「～太」というかたちで名前に使用されたことがなかったわけではない。むしろ，明治よりも古い時代から使用されている命名法である。たとえば，平清盛は，その幼名を「高平太」，近藤勇は，その幼名を「勝太」といった。また，尾張徳川家では，代々幼名として「五郎太」を継承している。すなわち，「～太」という命名法は，男性の幼名として古くから使われていたのである。

したがって，今日の「～太」という命名法が全盛であることは，すなわち，命名が，いわば「幼名化」現象を起こしているということができるだろう。

仮説：近年の日本人の命名は，幼名化現象を起こしている。

「愛」という漢字はどうだろうか。「太」と時期を同じくして爆発的に増えたわけだが，「太」

の考察から敷衍して考えると，以下のようになろう。さきほど述べたように，大正時代からすでにこの漢字は使用されていた。しかし，なぞの空白期間が半世紀以上続き，復活を遂げた。これは，1932 年までの名前の愛と 1978 年からの愛とは，まったく別物であるということを意味する。後者は，すなわち，愛という精神性のことではなく，愛（いと）しい我が子，愛（あい）らしい女の子といった意味ではないか。やはり，女の子につける名前という意味で，ここにもまた幼名化現象が存在するということができるだろう。

4. 検 証・論 証

近年の日本人の名前は，幼名化現象によるものである，とした仮説は妥当だろうか。命名の分水嶺としての 1980 年を境に，それ以前は幼名化現象は見られず，1980 年以後は幼名化に関係する現象が存在するか否かについて検証する。

4.1. 時代区分

まず，過去 99 年間分の期間をいくつかに分ける。命名は時代性との関係も認められるので，7 つに区分した。大正はひとつの区分とし，昭和は戦前（戦中）と戦後および 70 年代と 80 年代とに区分した。平成は人名用漢字の大幅改正のあった 2004 年を境に区分した。その結果が以下の表である。

【表５】 時代区分

No.	区分	西暦	年号	期間
I	大正	1912 ～ 1926	大 正　1 ～ 大 正 15	15
II	昭　和　（戦前）	1927 ～ 1945	昭 和　2 ～ 昭 和 20	19
III	昭　和　（戦後）	1946 ～ 1969	昭 和 21 ～ 昭 和 44	24
IV	昭　和　（70's）	1970 ～ 1979	昭 和 45 ～ 昭 和 54	10
V	昭　和　（80's）	1980 ～ 1988	昭 和 55 ～ 昭 和 63	9
VI	平　成（改正前）	1989 ～ 2004	平 成　1 ～ 平 成 16	16
VII	平　成（改正後）	2005 ～ 2011	平 成 17 ～ 平 成 23	7

この時代区分をもとに，漢字の使用頻度を表にしたのが以下である。漢字の右横の数字はその区分期間の使用数である。

【表６】 年代別名前漢字トップ 10（男性）の漢字一覧

I		II		III		IV		V		VI		VII	
正	34	弘	19	浩	24	樹	16	也	21	太	41	翔	18
郎	27	清	19	修	22	健	13	太	15	大	39	太	16
雄	21	博	19	秀	22	大	13	大	15	翔	36	大	14
一	18	勇	19	誠	21	一	10	健	12	拓	17	斗	11
三	15	進	17	隆	18	学	10	樹	10	也	16	悠	9
清	15	勝	12	博	15	剛	10	翔	10	海	15	颯	8
茂	15	茂	12	豊	14	誠	10	輔	9	健	14	陽	5
実	13	実	11	茂	13	直	10	直	8	樹	14	蓮	5
勇	12	稔	9	進	12	輔	7	亮	7	輝	12	海	4
博	9	勲	8	和	12	也	7	和	7	翼	8	真	4

弘	8	昭	7	明	11	介	6	拓	6	斗	7	優	4
義	4	武	7	清	10	淳	6	介	5	達	6	陸	4
武	4	三	6	一	9	哲	6	誠	5	輔	6	和	4
秀	3	功	5	樹	8	亮	5	達	5	蓮	6	輝	3
進	3	正	5	徹	8	英	4	剛	2	雄	5	空	3
男	3	夫	5	彦	8	秀	2	哲	2	陸	5	翼	3
辰	2	郎	5	剛	7	崇	2	徹	2	亮	5	蒼	2
治	1	和	5	稔	7	聡	2	雄	2	貴	4	一	1
二	1	雄	3	也	7	博	2	一	1	平	4	瑛	1
夫	1	利	3	直	6	浩	1	学	1	優	4	雅	1
		幸	2	哲	6	修	1	淳	1	駿	3	希	1
		昇	2	健	5	太	1	聡	1	地	3	健	1
		明	2	二	5	徹	1	平	1	直	3	向	1
		隆	2	勉	5	二	1	優	1	颯	3	樹	1
		一	1	学	4	之	1	祐	1	一	2	駿	1
		修	1	実	4	平	1	洋	1	匠	2	人	1
		辰	1	夫	4	洋	1	竜	1	竜	2	拓	1
		二	1	弘	2	竜	1			康	1	歩	1
		勉	1	勝	2					哉	1	夢	1
				昇	2					人	1		
				正	2					智	1		
				聡	2					悠	1		
				勇	2					陽	1		
				淳	1					涼	1		
				達	1					和	1		
				之	1								

【表７】 年代別名前漢字トップ 10（女性）の文字一覧

I		II		III		IV		V		VI		VII	
子	109	子	190	子	206	子	55	美	28	美	32	美	20
代	26	美	27	美	86	美	39	子	17	彩	24	結	13
千	19	幸	19	由	37	由	15	恵	14	愛	16	菜	13
キ	14	節	19	恵	28	恵	14	麻	14	花	15	優	10
文	14	和	19	幸	22	裕	12	愛	11	咲	14	愛	8
ヨ	13	智	15	智	20	真	10	香	11	香	10	衣	7
静	13	弘	14	洋	20	智	10	織	10	萌	10	陽	7
ミ	9	洋	14	久	17	陽	10	衣	7	葵	9	く	6
久	9	九	13	京	15	香	9	穂	6	衣	8	さ	6
清	9	代	12	裕	15	久	8	裕	6	海	8	ら	6
ハ	7	文	11	和	14	織	6	智	5	七	8	羽	6
愛	7	悦	9	明	12	純	5	彩	4	舞	8	咲	6
貞	7	光	7	悦	10	直	4	久	3	優	8	葵	5
美	7	京	6	真	9	穂	4	舞	3	月	6	奈	5
ル	6	昭	5	節	8	優	4	友	3	菜	6	海	4
幸	6	信	5	順	5	愛	2	陽	3	子	6	七	4
き	4	勝	4	直	4	理	2	理	3	奈	6	莉	4
シ	4	愛	3	陽	4	ぐ	1	あ	2	麻	6	杏	3
光	4	照	3	啓	2	み	1	み	2	未	5	桜	3
フ	3	栄	2	弘	2	め	1	ゆ	2	来	5	子	3
重	3	孝	2	代	2	紀	1	絵	2	く	4	た	2

信	3	敏	2	か	1	幸	1	沙	2	さ	4	な	2
八	3	紀	1	ゆ	1			佳	1	ら	4	ひ	2
敏	3	恵	1	り	1			日	1	千	4	心	2
芳	3	重	1	浩	1			明	1	桃	4	央	1
和	3	貞	1	典	1			由	1	日	4	月	1
は	2	典	1							穂	4	彩	1
み	2	八	1							明	4	真	1
よ	2	良	1							茜	3	乃	1
る	2									織	3	凛	1
正	2									尋	3		
サ	1									乃	3		
ト	1									遥	3		
ナ	1									凛	3		
マ	1									音	2		
君	1									夏	2		
照	1									結	2		
										沙	2		
										真	2		
										瞳	2		
										楓	2		
										陽	2		
										里	2		
										玲	2		
										々	2		
										た	1		
										な	1		
										ひ	1		
										亜	1		
										羽	1		
										央	1		
										佳	1		
										紀	1		
										琴	1		
										詩	1		
										成	1		
										早	1		
										摘	1		
										百	1		
										由	1		
										莉	1		

4.2.　幼名化に関する現象

4.2.1.　人としての理想（男性）

1980年以降の幼名化現象の検証として，幼名化という概念をもとに，1980年以前（第Ⅰ期～第Ⅳ期）を分析してみると，対照的な名前が浮かび上がってくる。第Ⅰ期（大正：1912－1926）にもっとも多く使用された「正」，第Ⅱ期（昭和戦前：1927－1945）にもっとも多く用いられた「清」や「博」は，正しさ，清さ，博識といった，人としての人生を歩むときの理念を体現している漢字といっていい。そういった漢字が命名する親の願いとして使用されている。なお，第Ⅰ期の

「正」については，年号が代わったあとの数年は，大正という年号からの借用という要因も加わる。

そして，第Ⅲ期（昭和戦後：1945－1979）において，第3位にランクする「誠」も，「正・清・博」といった漢字と同じといっていいだろう。しかも，誠は，1952年から奇しくも1980年までの29年間，ずっとトップ3にランクし続けていた。そのうちトップ1は，実に18回であった。まじめで正直であってほしい。それこそが1980年までの日本人が子どもに与えたい名前の漢字のもつ意味であった。

人としての理想がそのまま名前となっているこれらの時代は，幼名化現象とは無縁な時代であった。

4.2.2. 戦争の影（男性女性）

戦前戦中の時期に相当する第Ⅱ期（1927－1945）は，男性では，「勇・勝・勲・武・功」といった戦勝への祈念をこめた名前が上位にランクしているが，終戦から復興の時期に相当する第Ⅲ期（1946－1969）は，「勲・武・功」の名前がトップ10から消え，「勝・勇」が第Ⅲ期の24年間に2回ランクするだけとなった。

これは言うまでもなく，戦争という時代が，否応なく生まれくる命への名付けに影響を与えた結果であり，幼名化ということとは，むしろ対極にある命名といえるだろう。

4.2.3. 「～太」（男性）

ここで一転，1980年以降の状況を見てみよう。すでに取り上げている「～太」は，ここまで見てきた第Ⅰ期から第Ⅲ期には一度もランクされなかった。しかし，第Ⅳ期（70年代：1970－1979）に1例がランクインし，第Ⅴ期（80年代：1980－1988）には，一気に第2位に躍り出ている。ちなみに第1位の漢字は「也」である。続く第Ⅳ期（平成改正前：1989－2004）は，第1位となり，さらに第Ⅶ期（平成改正後：2005－2011）でも第2位に位置している。

日本人男性の名として「～太」という名前が1980年ころから約30年間にわたってトップに君臨し続けているということは，単なる一時期の流行ではなく，日本人の名前の大きな潮流といっていい。すなわち，幼名化こそが現代の命名を特徴付ける重要な概念なのである。

4.2.4. アニメや芸能人に由来する名前（男性）

先ほど少し触れた「也」であるが，第Ⅴ期では，「太」をおさえてもっとも多く使用された漢字であった。也は第Ⅲ期から見え始めているが，そのほとんどは哲也であった。哲也は，1963年に初めてトップ10入りし，その翌年だけは「達也」に代わるものの，さらにその次の年から10年間，1974年まで哲也はトップ10入りしていた。也は，哲也という名前で使われる漢字であった。

しかし，その後トップ10からは姿を消し，代わって達也がランクインしてきた。達也は，1984年に第10位，1985年に6位と順位を上げ，そして，第Ⅴ期の1986年に第2位となり，翌1987年にはついに第1位となった。その後も断続的にトップ10入りしたが，次第に消えていった。

達也がなぜ一時期もてはやされたのか。理由は，当時人気のあった漫画および同漫画をアニメ化したテレビ番組の影響である。あだち充原作の「タッチ」という幼なじみの男女の恋愛を描いた漫画で，その主人公が達也であった。漫画は1981年から1986年，テレビアニメは1985年か

ら1987年に放映された。その漫画の設定において，達也は双子であった。なお，もうひとりは和也であった。しかし，和也は交通事故で死亡することや，真の主人公は和也ではなく達也であることが明らかになってくるにつれて「達也」が人気を得たことは容易に考えられる。そして，このアニメがブームになった時期と「達也」という名前が一気に現れランクインした時期とがぴたりと重なる。ランクインしている「達也」という名前は，この漫画とアニメの影響である。

我が子の名前に漫画の主人公と同じ名前を選択するというのは全くの自由である。しかし，アニメの主人公の名前を，ひとりの人間しかも我が子が一生背負っていく名前に選ぶ感性は幼いと言わざるをえない。よって漫画の主人公である高校生の名をもとにする名前は幼名化の証左でもある。

4.2.5.　音を重視する名前（男性・女性）

最近の名前の付け方は，まず響きの良い音であること，あるいはその名を口にしたときに可愛らしく聞こえることがまず最初の条件で，その心地よい2音から3音の音に，漢字を当てていくという命名のプロセスをとる。すなわち，漢字使用の視点から言うと音仮名的な使用法である。一般的な言い方をすれば「当て字」である。音ひとつひとつに漢字を当てていくということになると，自然使用される漢字はその音を持ってさえいればいいということになる。できれば意味もいい雰囲気のものであればなおよい。その結果，当てることのできる漢字の量は増え，表5の第Ⅴ期にみるように使用する漢字は他の区分と比較して圧倒的な量となっている。これは男性女性いずれでも現象として確認できるが，女性の名前において顕著である。

音が優先されるということは，声に出してその名を呼ぶというのが想定されている。つまり，親が子どもを呼ぶという状況である。そして，その名を呼んだときの音が可愛らしいものであったらいいという心理である。これは対象が幼い子どもであることを無意識のうちに前提としているからである。その人間が成人し，社会で働き，父となり母となるという視点はない。

かつては，意味を重視していた。音はその漢字に付随するものであって，重要なものではなかった。しかし，今日の音を優先する命名法というのは，これもまたその名が幼名化していることと別のことではないのである。

4.3.　漢字政策の陥穽

子どもの名付けが幼名化していくプロセスの中で，名付ける側の要因を内的要因とすれば，この問題には外的要因も存在する。

人の名に使用できる漢字には，これを制限するきまりがある（戸籍法施行規則）。これによれば，戸籍に子の名として記載できる漢字は，常用漢字と人名用漢字のみである。人の名の表記，つまり漢字には制限があるが，その漢字の読み方には制限がない。漢字は制限，読みは無制限なのである。

漢字というのは，しかるべき表記があって，それにしかるべき意味があって，さらにしかるべき読みがある。これが人々によって守られることによって漢字が成立する。この前提を無視する法律が漢字の意味と切り離して漢字の音だけを借用するというやり方を助長させる結果となっている。

もう紙幅がないので，この漢字政策と命名の関係についての考察は別の機会に譲るが，音仮名や訓仮名的な使用に一定の歯止めをかけなければ，今後音仮名や訓仮名とも呼べないような従来

の音から逸脱した音が名前の読みとして数多く漢字に当てられていくことになるだろう。そしてそれは，かつて中世から近世にかけての幼名のように，奇妙な名前を増加させることにつながっていくことだろう。

5. 結 論 と 課 題

以上，現代の人名の命名にまつわる現象について，その変化のありようを捉え，そのうえでその変化の誘因を「幼名化」現象というキーワードによって論証した。「近年の日本人の命名は，幼名化現象を起こしている」という仮説は，ここにとりあげたいくつかの具体例によって一定の説得力をもつものと考える。

幼名化は，いわば内的な要因であって，幼名化という変化とその誘因には，外的要因も存在することにも言及した。すなわち，人の名に使用できる漢字の制限である。この外的要因については，本論ではごく簡単にしか触れられていないが，実はもっと重要な，かつもっと深い変化の誘因と関係している。この問題について取り上げさらに詳細に論じる必要がある。1980 年を境にした時代の感性を内的要因とするならば，人名用の漢字制限を外的要因として同じ重みをもって分析し，論証していかなければならない。

本論のキーワードである「幼名」を軸にいうなら，中世から近世にかけての幼名をとりまく状況と異なるのは，現代に「元服」はないということである。かつては，元服の際に幼名を捨て，仮名（けみょう）や実名（諱）をつけることができた。すなわち，かつては大人になったら幼名を幼き日の思い出とすることができたのである。しかしながら，今日，名前を変更することは社会的通念上前提とはされていないし許容もされていない。仮に名前を変更するとしても，戸籍上の名の記載を変更するには，家庭裁判所の許可がいる。しかも，妥当な理由がなければ変更許可が下りることはない。現代においては，幼名のごとき名は，たとえその人が大人になってもずっとついてくる名なのである。

繰り返すが，命名の幼名化の是非をここで論じるつもりはないし，かりに強いて是非を論じるとしても，私には是か非かわからない。個人的な心情はもってはいるが，歴史的な視点から俯瞰すれば，そのようなものは後顧するに値しない。なぜなら，価値というものは常に変化していくものだからである。ただ，一人の人間の名付けには，命名に際して依拠すべき唯一のものは，その名付け親の存在だけであるということは忘れてはならないだろう。

参 考 文 献

・円満字二郎『人名用漢字の戦後史』岩波書店，2005
・ロドリゲス『日本語小文典（下）』岩波書店，1993
・安田敏朗『国語審議会 迷走の 60 年』講談社，2007
・安岡孝一『新しい常用漢字と人名用漢字 漢字制限の歴史』，2011
・阿辻哲次『戦後日本漢字史』新潮社，2010

［2012. 9. 27　受理］